

今週の話題：

<ドミニカ共和国への旅行者に対するマラリア予防内服の改訂>

マラリアの危険性は、低いながらも依然、年間を通して特に西部地方に存在するが、最近、東部の州である La Altagracia州において熱帯熱マラリアの流行が報告された。この地域は、行楽地であるババコ海岸を含んでいるため、旅行者は注意されたい。この地域で推奨される予防内服薬はクロロキンである。

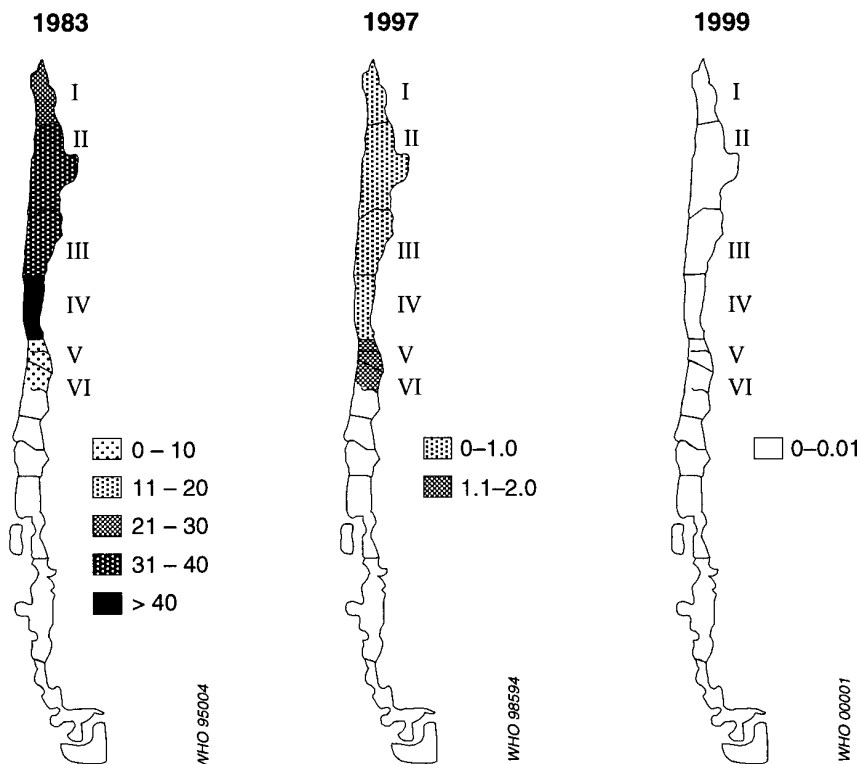
厚生省は、この州での流行に対し、監視体制の強化などの対策を実行した。ドミニカのマラリア予防内服は、2000年 3月に再検討される予定である。

<チリにおけるシャーガス病 - 伝染阻止の証明>

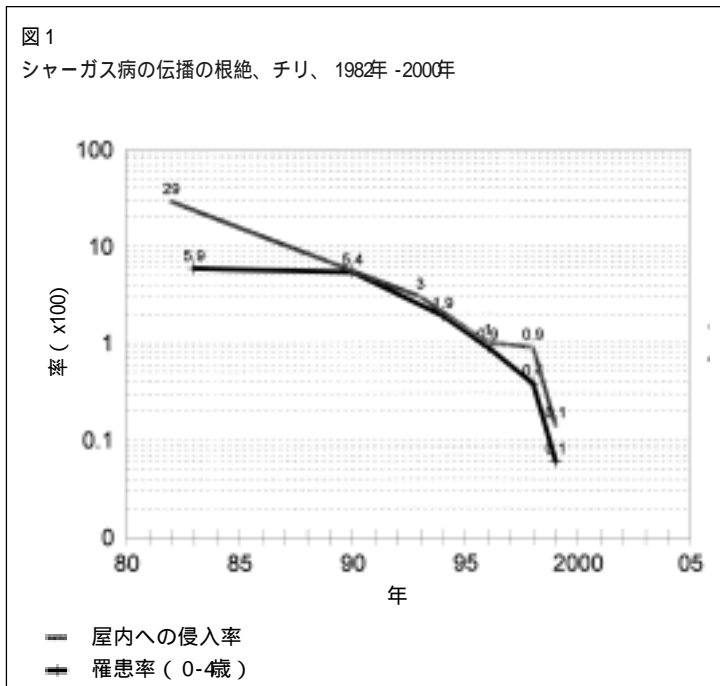
1999年の昆虫学と血清疫学のデータが、チリにおけるシャーガス病の伝染の阻止が完了したという事実を示している。1980年代には、チリ国内すべての年齢集団において、感染率は17%あり、住居内への媒介昆虫(サシガメ)の侵入率は、平均で28.8%であった。また、1984年の献血者における感染率は3.6%であった。1982年から1999年にかけての国によって実施された媒介昆虫駆除事業は、住居への侵入率を99%以上減少させ、媒介昆虫の数は、病原体が伝染するのに必要な数をはるかに下回っていた。1999年の4歳以下の子どもにおける血清疫学のデータは、1983年の同じ年齢集団における有病率が5.4%であったのに対し、0.16%であった。これらの結果は、この国における、媒介昆虫の伝染が阻止されたことを示している。

表 1 (p. 11): サシガメの屋内への侵入率、チリ、1982年、1983年、1997年、1999年 (WER参照)

図1 サシガメの屋内への侵入率、チリ、1983年、1997年、1999年



チリの人口は 1340万人、うち 82%は都市部に住み、約 170万人が地方病地域 (-)に住んでいる。したがって、慢性心筋症や内臓肥大にかかる危険にひんしている。



<ワクチン防腐剤としてのチオマーサル>

ワクチン防腐剤として使われる、水銀を含む化学化合物であるチオマーサルの使用は、徐々に減少すると予測される。しかし、AAPとUSPHSは現在利用できるチオマーサルを含む子どものためのワクチンを使い続けることの重要性を強調している。

チオマーサルは、1930年代からワクチンの汚染を防ぐために使われてきたが、この間に起こった予防接種による有害な問題は、本剤に起因するものではなかった。しかしながら、世論は水銀の使用に堅く反対し、この化学物質を最小限に抑える必要性が認識されている。

チオマーサルは、質量の49.6%が水銀である抗菌剤で、その正確な毒性は未解明である。多用量では、神経および腎臓への毒性が報告されているが、低用量での毒性に関するデータは信頼できず、ワクチンからのチオマーサルの摂取における用量反応曲線はつくることができない。

単用量ワクチンであれば、汚染の危険はなく、防腐剤を必要としないが、発展途上国にとっては、高価すぎる。

今後の課題はチオマーサルに代わるものの開発である。しかし、それが商業上、利用できるようになるには、相当な時間を要するだろう。

表 1 (p. 14): 典型的な予防接種におけるチオマーサルからの水銀曝露 (WER参照)

流行ニュース

ハンガリーにおける髄膜炎菌感染症

1999年12月初旬に Bacs-Kiskun地方において、髄膜炎菌感染症が流行した。

1月5日の時点で30症例と4例の死亡が報告されている (死亡率13.3%)。

国立疫学センターは、BおよびC群の髄膜炎菌であることを確証した。保護および予防の手段として、リファンピシンとA/C群の血清ワクチンによる化学療法がある。

(篠野瑞穂、嶋田智明、宇賀昭二)